



広報 えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の 1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

●お知らせ 市役所の内線番号が4月1日(月)の機構改革に伴って変更されるため、問い合わせ先は課名のみの表示としています。



"変わる郷土、学びたい"

4月中旬の完成を目指し、急ピッチで工事が進む海老名駅周辺。中央公園から、周辺の建物群を驚きの表情で見上げているのは、今泉中学校の1年生15人(写真)。「郷土に生きる」という研究テーマのため訪れた生徒たちは、変わりゆく「海老名の今」を目の当たりにしました。

今泉中学生が駅前を見学

見学したのは、駅から伸びる歩行者専用の自由通路や、中央公園を囲むように建てられたショッピングセンター「ビナウオーク」。ここは、デパート・映画館・飲食店街などが入る斬新な外観の建物で、生徒たちからは「かっこいい。他のまちの人にも自慢できます」という声。また、10の劇場が集合し、総計約2300席を有する映画館(シネマ・コンプレックス)では、「日本一大きい」という22階のスクリーンを前にびっくり。

見学後も興奮さめやらぬ様子で、市職員や工事担当者へいろいろと質問が。「ショッピングセンターを建てたのはなぜ?」という問いには、「駅前は長い間何もなくて寂しい感じだったので、土地を持つ会社へ『海老名のために開発をしてください』とお願いしたからです。」「透明の大きな屋根は何のためにあるの?」という問いには、「屋外にも人々が集まれる空間を作るためです。そこでは、屋台形式のお店を出すことや、イベントの開催を予定しています。中には『デパ地下グルメはある?』『オープン初日の売り上げ予想は?』といった現実的な質問も飛び出し、笑い声上がる場面も。

生徒自身がテーマや課題を見つけ、自主的な取り組みを重視するこの研究は、去年から始まった「総合的な学習の時間」の一環。駅周辺の研究発表は今月中旬以降ですが、郷土を見つめ直す体験は、急速な駅前の変化とともに、生徒たちの心に強い印象を残したようです。

大谷小では

感謝の コンサート



「お世話になった郷土の人たちに、何かお礼を…」この思いを、卒業間近の大谷小学校6年生児童94人が、校外でコンサートを開くという形で実現しました。

「ありがとうコンサート」と名づけられたこの催しは、2月に大谷児童館・国分寺台文化センターなど5施設で行われ、地元の幅広い世代に好評を博しました。「総合的な学習の時間」の趣旨に沿い、児童たち自身が合唱や踊りなどを企画・練習し、衣装づくりも行いました。

「子どもたちに遊んでもらったような感じで、あっという間に楽しく時間が過ぎてしまいました」とは、観覧後のある高齢者の方。また、児童の一人は「本番は緊張してあまりにっこりできなかったけど、お客さんは何となくにっこりしてくれた気がしました」と話し、郷土のみなさんの心を和ませたことに満足そうでした。